

2022/1/9

(うときゅういっきの「あんた、これを料理いうたはんの？」自分の舌篇) 書庫版



早速、昨日の料理内容につきましてツッコミが入りました。

曰く

「ほんま題名通り、しょうもない料理やなあ」

それもその筈、言われて当然。

元々の題名は「あんた、これを料理いうたはんの？あんたも相当な心臓やねえ」

でした、から。

しかし、あまりに長いので「相当な心臓」部分を割愛したのです。

それにしても何でこの手のものを載せているのかと申せば、真意は

「もっと自分の舌に自信を持ってもいいのではないか？」

と思ったからです。

「自分の好みはこれであると、もっと堂々と公言しても」

それで自分の舌からみて手間とコストの割にはおいしかったものを、臆面もなくアップロードしたわけです。

例えばこういう経験はないでしょうか？自分にはあったのですが。

みんながおいしいと言っているお店に行って食べたけど、自分にはそれほどおいしいとは感じられなかった。

しかしみんながおいしいと言っているのだから、たぶん自分の舌が変なのだろうと自分の率直な感想を密かに取り下げて、こそこそと後ろに隠し

「うん、上手かったわ」

と言ってしまったような経験。

反対に、ランチについてきた食後のコーヒーに

「このコーヒーはおいしいわ。どこのコーヒーやの？」

とお店の人に聞いたら

「ここだけの話、実はインスタントですわ。ゴールドブレンドをバリスタで淹れてお出ししてまんねえや」

と打ち明けられてバツが合悪くなり、それ以降その店には何となく足を向けるのを一瞬たう様になってしまった経験、とか。

その裏には「ネットにアップして耐えられるものなのかどうか？」という判定基準が働いているような気がしたのです。自分の場合の憶測からですが。

しかしよくよく観察してみると自分だけではないようなのです。その傾向が。

「それにしても何でそんなことを想定しながら食事をしているのか？考えてみればばかばかしい話だ」

と思い始めたわけです。

「老い先短い貴重な時間の中であるにもかかわらず、あっちの様子を伺い、こっちの様子を見ている自分。一体全体何でこんなことをしているのか？自分は」

というような思いもこのシリーズを始めることにした理由のうちの、余り表にはでないものとしてあったのでは御座いました。

注) ゴールドブレンド、バリスタはネスカフェ（ネスル日本）の商標です。